

# 全科協ニュース

1977年1月1日発行  
(通巻第33号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園  
国立科学博物館内

☎ 110

Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇1977年のはじめにあたって ◇全科協北から南から ◇会員館園の紹介

## 1977年のはじめにあたって

全国科学博物館協議会

理事長 福田 繁

1976年には博物館に関する重要な国際会議が各地で開催された。その中でとくに関係の深いものは、2月ニューデリーで開催された「アジア地域自然史博物館専門家会議」、3月東京および京都で開催されたUNESCOの「アジア地域博物館近代化セミナー」、6月オッタワで開催されたICOMの自然史国際委員会及び11月テヘランで開催されたアジア地域ICOM国内委員長会議などである。

昨年のみならず過去数年間にアジア地域で博物館に関するRegionalあるいはSub-regionalな会議がしばしば開催されており、その都度博物館の現状や問題点が数多く分析討議され、その対策として多くの勧告が採択されている。

しかし、これらの多数の勧告のうちで、参加国の努力によってすでに実施されたか、あるいは実施に向かっているものもないではないが、大部分の勧告が放置されたままになっているのはまことに残念なことである。例えば、博物館相互間の情報、資料の交換、人物の交流、職員の研修組織などほとんど手がつけられて

いない。

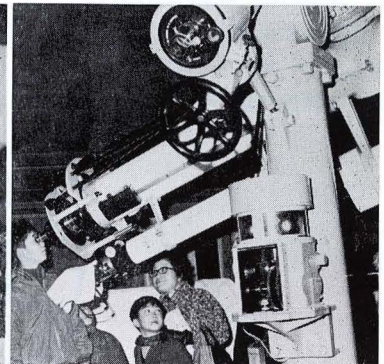
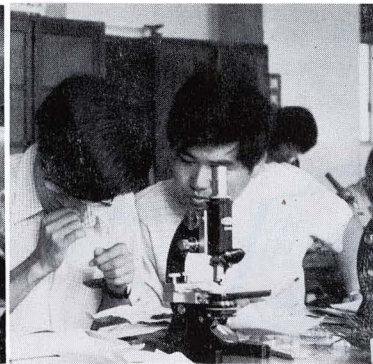
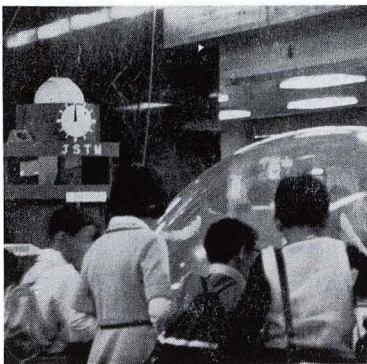
従って、今年5月モスクワで開催予定のICOM総会などを通じて、アジア地域博物館の現状や抱えている特有の問題などを世界の博物館人にもよく理解してもらい、その解決を促進する必要があると思う。

また、それぞれの館で独自にできる情報、資料の交換や人物の交流、あるいは展示会の計画などは国際協力によって可能なものも少なくないと思われるから、今後の促進を期待したいと思う。

ICOM日本委員会としては、今年はユネスコ・アジア文化センターの協力によって、アジア地域博物館中堅職員の訓練コース開設のための準備会議の開催を計画し、その準備を努力中である。

この計画が実施し、中堅職員のための訓練機関が開設されれば、他国の博物館の実情をさらによく知り得るばかりでなく、将来アジア地域の博物館相互の情報交換、人物交流などの門戸を開くことにも役立つであろう。こうした国際間の交流は将来の楽しみである。

皆さんの御健勝と御活躍を祈ります。



## 新年おめでとうございます

## 斎藤報恩会自然史博物館長 畑井小虎

多年にわたる御協力により昨年11月3日の吉辰に一般公開の運びとなりましたことを御報告すると共に深く感謝し御礼を申し上げます。本館は昭和3年開館以来永い歴史と伝統をもって一般社会教育に努めてまいりましたが、このたび時代に即応した姿に代わって再び公開となったのであります。本館の特色とするところは、展観と研究を兼備したもので、これがため、多くの研究員を委嘱して一般研究者に便を与えることにあります。

今後共よろしく御教導下さるようお願いいたします。

## 松島水族館長 西條繁雄

旧年中各位殿には多大なる御指導賜り、心より御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本年は松島水族館といたしましては、巳年に因み海へびの展示を準備中です。

## アリタキ・アーボレータム園長 有瀧龍雄

昨年は、ボルネオや台湾へ職員を出張させたり、また10月には英王立園芸協会のヒリヤー副会長夫妻、米国立アーボレータムのクリーン園長が相次いで来園、日光へ案内したり、全科協他の後援により国立科学博物館で講演会を催したり何かと多忙な年でした。今年は小園の開設から満50年に当たるので、植栽植物目録の改訂、造成中のロック・ガーデンの完成などに取り組みたいと一同気分を新たに新年を迎えました。何とぞ変わらざる御指導を賜りたくお願い申し上げます。

## 川口市立児童文化センター館長 田口和夫

## 1. 子どもに親しまれる展示活動

昨年より3か年計画で「交通機関」を中心とした展示物の制作が進行中ですが、職員の創意を生かし、子どもたちに親しまれる展示にしたいと考えています。

## 2. 教育活動、事業のみなoshi

種々の教育活動の充実、諸行事、展示会等について検討し、より教育的に付加価値を高めたい。またこれに対応する職員の研修も深めたい。

## NHK放送博物館長 太斎嘉行

NHK放送博物館では年間7万人の来館者がありますが、各地で開催する移動放送博物館は2週間で約15万の見学者がありますので、今年もこれを積極的に実施して放送に対する理解を深めたいものと思っています。

また昨年は「オリンピックと放送」、「イタリアオペラ」、「BCL」と3回特展を実施しましたが、今年は更に充実した内容で2か月に一度位特展を行いたいものと考えています。

## 通信博物館長 和田敏夫

## (1) 魅力ある博物館活動の展開

当館の主要展示である世界の切手について、陳列ケースの収容量の拡大と、装置を改良し公開展示では世界一を誇る17万種類の切手を更に整備し紹介することと、利用者に広く親しまれる館外展示活動の活発化を本年の重点施策としている。

## (2) 75年史の編さん

本年は通信博物館創立75周年を迎えるので、これを記念して年史を発刊する。

## 天文博物館五島プラネタリウム館長 鏑木政岐

昭和52年4月1日は当館の開館満20周年の記念すべき日に当たります。そこで、目下記念行事を有意義なものに致したいと考え、それぞれ分担を定めて準備に入った次第であります。その一例と致しましては、20周年記念天文普及講演会の無料開放、星の会（友の会）会員対象の天体観測会の開催、ヨーロッパ天文施設見学ツアー公募、20年の歩み、パンフレットの編集等で、あります。4月より1年を通じて実施致したいと考えておりますので、何か他に良いお知恵がありましたら拝借いたしたいと願う次第であります。

## 電気通信科学館長 白根禮吉

今年当科学館は、開館3年目に入ります。正にこの3年目こそ館運営の本番となります。そこで、社会教育の場としてシッカリした運営体制を整えることはもちろん、展示システムをより一層魅力あるものにしなければなりません。例えば、特別展などでは一層斬新なアイデアを探り入れフィロソフィーのある展示を工夫すること、また従来の参加方式を更に進めて観客が自由にコミュニケーションできる創造コーナーを作ることなどを計画しています。





**東京都児童会館長 村上七郎**

開館14年目を迎える本館は、児童、青少年の遊び場、憩いの場としての空間のそう失など厳しい状況をふまえ、都立児童館としてのセンター的機能など多様な都民の要請に応じて、鋭意拡張整備に努めてきました。

本年もこのような状況をじゅうぶん分析したうえで、清新にして、児童、青少年にとってより魅力ある児童会館を目指すための整備計画を模索し、再構成すべく検討をすすめています。

微力ではありますが、協議会加盟の諸館各位の御支援を得ながら努めたい所存です。

**農林省蚕糸試験場長 福田紀文**

絹には長い歴史と伝統がある。優雅な光沢と豊富な染色性など衣料繊維としての優秀性は依然として繊維のなかで第一位であり、その消費は世界的に増大している。

蚕糸業はわが国の風土や国民性にも適合して、その技術は専ら日本人によって作りだされたもので、世界に誇りうる国家的財産でもある。現在体系化につながる技術として蚕の人工飼料や絹の用途拡大などの研究を進めている。

関係各位の御助言をお願いいたします。

**船の科学館理事長 山下正雄**

不景気と物価高、政局の混迷のうちに昭和51年も暮れた。過去における異状な経済の発展に伴いひき起こされた各種の歪みやその反動が、事業や我々の日常生活にも切実な影響を与え、これが因となり種々の混乱や不毛の論争が繰り返されているが、我々は本年は明るく正しい年としたいものである。

博物館界においても、この流動する社会に対処し、徒らに博物館のため博物館に終わらしめることなく、それぞれの館の目的に応じ文化の向上、社会教育のため博物館の社会化、近代化に努め、社会の価値ある存在としなければならぬ。私はこの目的に向かい懸命の努力をしたい。

**労働省産業安全研究所長(産業安全技術館)秋山英司**

新館開設以来6年目を迎えようとするにあたり、この5年間の努力の成果をこの辺で深くかえりみるべき年となりそうです。労働災害の動向と安全技術の進歩に思いを致し、常設展示の内容更新に力を注ぐほか、特別展としては、「安全週間50回記念展」および「つい落災害防止展」などを今年のテーマとして取り上げようとしています。一方博物館の機能が展示と教育のみに終始することで社会の期待にこたえているかどうか、その辺の考察

にも手をつけてみたいと考えています。

**川崎市青少年科学館長 高松昭三**

開館(天文部門)から5年を経過、念願の本館建設は、昨今の経済不況の余波を受け、かなり先になりそうです。

1. 本年は(1)学校教育利用の充実、(2)普及活動の充実、(3)自然資料の収集・保存、(4)同好会活動の充実を重点的に推進する。
2. 館隣接地に多摩丘陵の野草の生育展示をおこない、市民に学習観察や、自然保護思想を啓蒙する。
3. 同好会活動は年ごとに内容が充実され、特に中学生天文クラブは自主的に運営、かつ研究を推進し、そして難解な問題のみ、職員がアドバイスしている。彼らの可能性をどこまで引き出せるか楽しみである。

**神奈川県立博物館長 北林一光**

この3月で、満10歳の誕生日を迎える。総合博物館としての使命をもっているために、レパートリーが多面的になりすぎる面もあるが、このことがまた、県民・市民との広い接触面をも提供することにもなる。この広さと深さをどう調整し、止揚していくか、古くして新しい課題と思う。変わりゆく社会の要請に弾力的に対応できる体質が大切であろう。館員、心をつなげて、けんきょに、天の声・人の言をききながら、堅実に前進を続けたい。

**岐阜県博物館長 小幡忠良**

昨年5月5日、博物館界へ仲間入りさせていただいてから8カ月、皆様からいくたの御指導御支援を賜り、深く感謝している次第であります。

開館1周年を迎えます今年は、来館の皆様の御意見をできるだけ聞き、県博としてのあるべき姿を推進していくとともに、来館者に、より満足していただけるための方途などについて特に検討したいと考えておりますので、よろしく御教導の程をお願い致します。

**内藤記念くすり資料館 青木允夫**

この4月から、名称を「博物館」に変更する予定です。これに関連し、4～5階の常設展示場を見直し、新収蔵資料を補充するなど、内容の充実をはかります。

また、学芸員(現在2名)を増員し、いわゆる博物館活動の推進に力を入れたいと考えています。

健康科学に貢献する博物館として、「家族計画教室」「老人福祉教室」の他に、新たに「戦後における医薬品の市場参入状況」などの特別展を企画し、さらに内容豊富なものにしていきます。

## 新年おめでとうございます

## 伊良湖自然科学博物館長 伊藤 務

当館は毎年夏に特別展を開催して常に地域と密着した文化・自然などを紹介してきました。そして昨年度から、5カ年計画で渥美半島の古代遺跡の発掘に手がけ、第一弾は我が国でも代表的な貝塚王国渥美を考える「渥美貝塚展」を開催しました。本年度は三河湾の船の歴史に関する展示会、53年は渥美の古墳、54年は渥美の古窯、55年は東大寺瓦に関する展示会を開催して地域社会の文化高揚に役立つ活動を続けてゆきたいと考えています。

## 神戸国際港湾博物館長 西川 光一

社会情勢のきびしいこのごろ、いろいろな意味でむづかしい問題も少なくありません。当博物館もはや14年目を迎えようとしています。新しいアイデアをもちこんで展示の様様替えをして、港湾博物館としての特色を生かし、一層多くの人たち、ことにミナト神戸の子供たちに親しまれるように努力したいと頑張っていきたいと思っています。

## 生駒山宇宙科学館 濱根 洋

公害だ、自然破壊だ、エネルギーの危機だとさわいでいる今日、なぜこうなったのだろう？ どうすればいいのだろう？ と今一度天文学的（宇宙的）に考えてみよう。「月例講座」の中に、「原子を考える」、資源を考える、「公害を考える」という話題をとりあげ、共に語り、共に研究する講座を企画します。

星空への興味づけは何といっても直接夜空を見上げることです。そこで、収容人員約50名の天文教室（旧京都大学生駒山太陽観測所跡）と別館（旧生駒山天文博物館ドーム）を使い、立体的な自然学習講座を立案中です。

更に最新の資料にもとづき、かけがえのない地球を更により深く、より新しく見つめなおすことができるような展示改新のプランニングもはじめている現状です。

## 和鋼記念館長 住田 勇

本年は、由緒ある出雲国（島根県）の奥地で日本古来の、俗に「たたら」製鉄と呼ばれる作業が再開されることになっている。

これは純良な砂鉄を原料にして、日本刀に不可欠の和鋼（玉鋼）をつくり、その技術を次代に伝承させるのが目的とされているようだ。

和鋼に関係した資料を展示する当館としても本年こそ正念場と心得、資料の蒐集に心掛け、さらに一層展示内容の充実をはかりたいと考えている。

## 津山科学教育博物館長 森本 謙三

我が国の博物館施設が、今では1200館にも達し、世人の注目をひきつつあるのは、喜ばしいことです。

今後益々内容の充実につとめ生涯教育の重要な役割を果たさねばなりません。それにつけても自然史博物館の誕生が意外に少ないのは淋しいことであり、生物進化研究の上からも、この分野の博物館が将来もっと設立されることを希望しています。

## 山口県立山口博物館長 白 杵 華臣

本年は当館が近代的な博物館に脱皮した改築10周年に当たる。これを記念してこの秋、特別展「防長ゆかりの名宝」を開催する。山口県にゆかりのある文化財のうち、国宝、重要文化財、県指定文化財等を中心に、県内はもとより全国からお里帰りをお願いし、これを一堂に展覧して県民に鑑賞の機会を与え、かつは山口県文化の源流をたずねようとするものである。皆様方の御指導と御援助をお願いする次第である。

## 徳島県博物館長 豊岡 磊造

昨年9月から10月にかけて、文部省海外派遣第362団団長として、アメリカ・カナダ・メキシコを視察することができました。訪問の目的は学校視察が主でありましたが、アメリカのいろいろな博物館も見学いたしました。ワシントンではスミソニア研究所ビルに行き、航空宇宙館や国立自然博物館も見せてもらいました。国立自然博物館では英文の説明書の外に日本語の説明書をくれました。その配慮に大変うれい感がありました。

昭和50年度から51年度にかけて、文部省社会教育局より博物館活動の振興方策の研究を委嘱され、館員一同研究に励んでいます。本年度はこの研究の成果を生かし、展示方法について工夫してみたいと思っております。

## 香川県自然科学館長 出井 健一

五色台を中心とした自然（生物・地学）や人文関係の調査・資料収集・整理等とあいまって、特に、年間を通じて実施している県内中学校2年生の集団宿泊学習（3泊4日）をいっそう充実させるため、学習指導方法の開発を進めたい。

小学生や一般来館者を対象とした館内の展示をくふうし、自然に親しみ、自然を理解する手だてをはかりたい。

よい子の科学広場等を整備し、自然保育に参加した幼稚園児らを、自然の中ででのびのびと楽しませたい。



## 愛媛亜熱帯植物園長 窪田 義直

当園では原因不明で4～5年前からカナリヤシばかりが区画ごとに大樹から苗木に至るまで次々と枯死し全滅状態であり、その数、100本以上となり目下県立農業試験場にて病気と土質の両面から調査中であります。本年はその空地に別種類のヤシの移植と珍しい植物の導入に努力して内容を一層充実してゆきたいと考えております。

## 佐賀県立博物館長 大園 弘

昨年開催した若楠国体芸術展「肥前歴史の旅」では、

特に幕末の佐賀鍋島藩が科学技術を導入した経過を総論的に紹介したが、今後は、佐賀藩が他藩に先んじて取り入れた蘭学と医学の系譜、藩の理化学研究所ともいうべき「精煉方」や、そこでつくられた佐賀ガラス、日本で最初の反射炉で鉄製大砲をつくった鑄造技術など、各部門別に研究をすすめ、いわば各論の展開を期したい。

更に本年は、将来本館で企画したい「科学史」展の調査研究も重点的に実施したい。会員各位の御協力をお願いしたい。

## 全科協北から南から

## 博物館職員講習を受講して

## 電気通信科学館 前島 敏郎

昭和51年度博物館職員講習（自然科学系）が、年の瀬も迫った12月1日から17日まで国立社会教育研修所で行われました。御存知のとおり、この講習は「自然科学系の博物館における学芸員の資格取得に資するための講習」で、社会教育施設としての博物館の重要性に鑑み、国（文部省）が行う資格付与講習で（従って受講無料）、図書館司書や公民館経営専門講座などの現職研修とは趣を異にしています。博物館法に定める学芸員は自然科学系博物館になじまず、当然のことながら自然科学系博物館の学芸員養成について特別の配慮が要請され、当講習は、昭和47年に第1回が開講され、今回は第4回で51年12月（17日間）、52年6月～7月（21日間）の両年度にわたって行われます。

さて、今回の講習ですが参加者は40名で、北は北海道から南は沖縄からと文字通り全国からの参加で、年齢的には24才から65才に及び、女性は3名の参加をみえています。館種別には、科学系14、歴史系7、美術7、動物5、水族4、植物4となっており、これは学校の教室とは異なり全くバラエティに富んだもので、2・3日もするとお互いに気心も通じてお国なまりも出たり、正に社会教育研修の場にふさわしいものとなりました。



カリキュラムは、社会教育概論1単位（15時間）、博物館学4単位（45時間）、自然科学史1単位（15時間）、合計6単位（75時間）で、それぞれ大学教授や国立科学博物館の部長、研究室長など専門の教授陣から格調高い講義を受けましたが、受講者一同1人の欠席もなく大変熱心に勉強しました。日常雑務に追われている私共には頭の整理となり、特に私の様に20数年前に学窓を出て、ある日突然科学館を担当するようになった者にとっては、博物館の存在について国の内外を含めて体系的な知識をうる場をえたこと自体、大変有意義なものでしたし、また諸先生の話聞くうちに今後学芸員として自分の館のみでなく日本の博物館発展のために一層奮起せねばと痛感したことでした。このことは若い人たちにも同様で、最後の日の感想会で「もっと専門的に掘り下げよ」、「スケジュールが込み過ぎる」等の批判はあったものの、「よい体験をした」、「次元の低い仕事から広い視野をえた」あるいは「博物館における学芸員の使命の重要性に改めて目覚めた」などの表現に実証されていると思います。

当講習の目的は単的にいえば「学芸員の資格を取るため」に集約されますが、しかしそれぞれの専門以外に広い科学的な知識や体系を学べたこと、また地域的にも担務の上からも異なる多様な人々と親しくなり、しかも最終的には志を同じくし現在の博物館運営上の諸問題について情報を交換しえたことなどは講義以外の大きな収穫であったといえます。

期間中、苦手な試験もあり、またレポート提出という宿題も沢山負わされましたが、本講習を終始懇切に指導された国立社会教育研修所及び国立科学博物館の諸先生方、職員の皆様の御好意にそうためにも、何とか恥づかしくないものを仕上げなければと思っています。そして、6月の後期講習で再び受講者の皆さんと元気で会えることを楽しみにしています。



---

 会 員 館 園 の 紹 介
 

---

## N H K 放 送 博 物 館

NHK放送博物館はNHKの放送開始30周年を記念して、世界で最初の放送専門博物館として昭和31年3月3日(1956)に愛宕山に創設されました。

NHKは大正14年3月22日(1925)に当時芝浦にあった東京高等工芸学校の一部を借りて作られた仮放送所で放送を開始したのですが、同年7月12日に愛宕山の本格的局舎から本放送を開始しました。放送博物館はこの記念すべき場所に、初期の局舎をそのまま使って開館しましたが、その後老朽化がはなはだしくなったため改築し、昭和43年9月11日(1968)、新装のもとに再開しました。講談の曲垣平九郎で有名な愛宕山の上にあるため、春は桜、夏ともなれば、みんな、つくつくほうし、あぶらぜみ、などのせみしぐれにかこまれるという、都心とは思えぬ良い環境のなかに建っております。

2階展示場では、大正14年3月22日の放送開始から今日までの我が国の放送の発展の姿を理解して頂くため、歴史資料(文献、機器、録音、写真、年表など)を中心として、わかりやすく展示してあります。また年に数回、その時々放送界の話題に応じた小型特別展示を行っております。さらに実験スタジオでは、カメラ、マイ

ク、照明装置などを使用して実際の番組制作技術の一端を紹介しております。またさらに一層深く突っ込んで勉強したい方々のためには、図書室を利用して頂くとともに、御照会にも応じていることになっています。

このような館内業務のほか、教育普及活動の一環として下記のような業務も行っております。

- (1) 毎月第1・第3土曜日、日曜日、および祝祭日に「NHK記録映画を見る会」、あるいは「NHK放送文化財ライブラリー資料公開」として「NHK文化財ライブラリー」に保管してある貴重な映画資料や録音資料の公開を催しております。
- (2) 毎年1回、都内および近県の高校生を対象として、「高校生のための放送講座」を開講し、アナウンスメント、スクリプトの書き方、ディスクジョッキーの基本、放送技術などの指導を各々専門講師を招いて指導しています。
- (3) 放送博物館を訪れる機会の少ない地方都市の人々にも放送の歴史を知って頂き、かつ放送に対する理解と興味を深めて頂くため、毎年2か所位の地方都市で移動博物館を、大体1週間から2週間位の期間で開催しております。

(岸野 端二)



所在地	東京都港区芝愛宕町1-10 (☎ 105)
電話	03-433-5211
交通	地下鉄 銀座線「虎の門」、日比谷線「神谷町」 バス 東京駅南口～等々力行「愛宕山下車」
開館時間	午前9時30分より午後4時30分まで
休館日	毎月曜日、ただし月曜日が祝日または振替休日のときは開館 年末年始 12月26日より1月4日まで
入館料	無料
設備	展示場 376㎡、資料庫 93㎡(恒温恒湿庫を含む)、テレビ実験スタジオ33㎡、講堂174㎡(収容人員200名)、図書室 51㎡、ほかに事務室、工作室。

## 第6回博物館事業研究会のお知らせ

昭和51年度全科協博物館事業研究会は、3月上旬「科学博物館における展示の理論と実際」をテーマとし、展示の実施段階を中心に開催する予定で準備をすすめております。

詳細については、実施要綱ができ次第お送りしますので、多数の御参加をお待ちします。

## あ と が き

○年頭にあたっての原稿について、本年の意欲、熱気の感じられる原稿をたくさんお寄せいただきました。より一層の御発展をお祈りします。

○全科協ニュースも本号から Vol. 7 となりました。本年も、科学博物館の運営等に役立つ原稿および情報の提供等みなさまの御協力をお願いします。(事務局)